

## 2. 学位取得者と論文題目

### 京都大学博士 (理学)

倉岡康治 (課程)

論文題目: Neuronal activity in response to emotional expressions in the primate amygdala (霊長類における情動を伝える刺激に対する扁桃核ニューロン応答に関する研究)

### 京都大学修士 (理学)

石川直樹

論文題目: 眼球運動課題遂行中のサル前頭連合野のニューロン活動

鈴木真理子

論文題目: ニホンザルはどのようにして群れのまとまりを維持しているか

森正樹

論文題目: 針葉樹人工林の多い森林におけるニホンザルの生息地選択

山口智恵子

論文題目: 実験者の注意方向がニホンザルの発声に与える影響

山本真也

論文題目: チンパンジーの社会的知性にかんする実験的研究—トークン使用場面における利己行動と利他行動の分析

張鵬

論文題目: 小豆島ニホンザル群の凝集性の高さに関する比較研究

## 3. 外国人研究員・研修員

### 外国人研究員

Srikantha Sachithanatham (スリランカ民主社会主義共和国)

受入区分: 人類進化モデル研究センター客員教授  
研究課題: 新世界ザル類の日内行動リズムの比較研究  
招へい期間: 2005年4月1日~2005年6月30日

Kim, Heui-Soo (大韓民国)

受入区分: 人類進化モデル研究センター客員助教授 (遺伝子情報分野)  
研究課題: 霊長類の機能遺伝子に連鎖した HERV 構成要素の比較解析  
招へい期間: 2005年7月1日~2005年9月30日

Suchinda, Malaivijitmond (タイ王国)

受入区分: 人類進化モデル研究センター客員助教授 (形態進化分野)  
研究課題: インドシナ半島地域に分布するマカクの系統地理学的研究  
招へい期間: 2006年1月1日~2006年3月31日

### 招へい外国人学者・外国人共同研究者

Lemasson, Alban (フランス共和国, ラトガーズ大学のリサーチアソシエイト)

受入教員: 正高信男  
研究内容: ニホンザルとテナガザルの音声コミュニケーションに対する社会的影響について  
招へい期間: 2004年11月30日~2005年8月23日

Jubin, Ronan (フランス共和国, ラトガーズ大学のリサーチアソシエイト)

受入教員: 正高信男  
研究内容: ニホンザルの音声分析について  
招へい期間: 2004年11月30日~2005年8月23日

Kang Kyung Hwa (大韓民国, Dong-eui University・常勤講師)

受入教員: 景山節  
研究内容: 肥満ニホンザルのレプチン, アディポネクチンとこれらの受容体の遺伝子クローニングおよび分子進化研究  
招へい期間: 2005年3月2日~2006年2月28日

Poti, Patrizia (イタリア共和国, イタリア認知科学工学研

研究所・主任研究員)

受入教員：松沢哲郎

研究内容：チンパンジーを対象とした認知機能の発達に  
関する共同研究

招へい期間：2005年3月25日～2005年4月24日

Humle, Tatyana (アメリカ合衆国, ウィスコンシン大学  
・研究員)

受入教員：松沢哲郎

研究内容：野生チンパンジーの行動に関する研究

招へい期間：2005年4月3日～2005年4月12日

Zeller, Anne Catherine (カナダ, ワーテルロー大学・助教  
授)

受入教員：Michael Alan Huffman

研究内容：マカカ属の物操作(石遊び行動を含む)行動  
研究

招へい期間：2005年5月11日～2005年5月30日

Crast, Jessica L. (アメリカ合衆国, ジョージア大学大学  
院生)

受入教員：松沢哲郎

研究内容：チンパンジー認知研究プロジェクトに参加,  
とくに対象操作の比較認知科学的研究

招へい期間：2005年6月21日～2005年8月23日

Leo, Natalie Pui Lin (オーストラリア連邦, クイーンズラ  
ンド大学ポス・ドク研究者)

受入教員：景山節

研究内容：霊長類のシラミと共生細菌, およびシラミに  
より感染する細菌の進化史

招へい期間：2005年7月1日～2007年6月30日

Auetrakulvit, Prasit (タイ王国, シルパコロン大学・講師)

受入教員：本郷一美

研究内容：霊長類研究所所蔵のマカク骨格標本資料の閲  
覧と比較研究

招へい期間：2005年7月18日～2005年7月30日

Urasopon, Nontakorn (タイ王国, ウボンラチャタニ大学  
・助手)

受入教員：濱田穰

研究内容：骨塩量減少に対する植物エストロジェンの効  
果の検討

招へい期間：2005年8月7日～2005年9月12日

Kijkuokool, Pisamai (タイ王国, パヤップ大学・講師)

受入教員：濱田穰

研究内容：植物エストロゲン (genistein) の血中レベル  
動態の生理活性

招へい期間：2005年11月10日～2005年12月10日

Urasopon, Nontakorn (タイ王国, ウボンラチャタニ大学・  
助手)

受入教員：濱田穰

研究内容：骨代謝マーカーの血中・尿中レベル動態と骨  
密度への影響

招へい期間：2005年11月14日～2005年12月25日

Trisomboon, Hataitip (タイ王国, スリナカリンウィロッ  
ト大学・講師)

受入教員：浅岡一雄

研究内容：HPLCによる植物エストロジェンのマカクに  
おける代謝

招へい期間：2005年12月5日～2005年12月28日

Granier, Nicolas Jean-Marie (フランス共和国, 認知神経  
科学センター・研究員)

受入教員：松沢哲郎

研究内容：野生チンパンジーの生態にかんする共同研究  
打ち合わせ

招へい期間：2005年12月19日～2006年1月25日

#### 4. 日本人研究員・研修員

##### 日本学術振興会特別研究員 (PD)

伊藤 (大塚) 麻里子

受入教員: 清水慶子

研究題目: 内分泌攪乱物質が雄マカクザルの精子形成に及ぼす影響—ヒト精子形成障害モデルの確立

受入期間: 2003年4月1日～2006年3月31日 (中断期間: 2003年10月1日～2003年12月31日)

座馬耕一郎

受入教員: Michael Alan Huffman

研究題目: 野生チンパンジーにおける利他行動の進化

受入期間: 2003年4月1日～2006年3月31日

鰐本武久

受入教員: 茂原信生

研究題目: ポンダウン層の哺乳類化石の記載と東アジアの新生代前半における哺乳類の進化

受入期間: 2003年4月1日～2006年2月28日

早川祥子

受入教員: Michael Alan Huffman

研究題目: ニホンザルの群れ間遺伝子交流とその進化

受入期間: 2003年4月1日～2006年3月31日

半谷吾郎

受入教員: Michael Alan Huffman

研究題目: 霊長類の社会構造の進化に環境と系統が与える影響

受入期間: 2003年4月1日～2006年3月31日

瀬藤大輔

受入教員: 三上章允

研究題目: レーザー照射によるサルの V1-LGN フィードバック経路のみの選択的破壊技術の確立

受入期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

打越万喜子

受入教員: 松沢哲郎

研究題目: 思春期テナガザルの異性の歌に対する感受性—感覚性強化の認知実験—

受入期間: 2005年4月1日～2008年3月31日

川合 (久保) 南海子

受入教員: 正高信男

研究題目: 加齢にともなう表象の操作能力の変化と脳機能に関する実験的研究

受入期間: 2005年4月1日～2008年3月31日

##### 受託研究員

和田晃

受入教員: 中村伸

研究題目: サルモデルでのバイオメディカル研究

受入期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

##### 研究生

橋本亜井

受入教員: 正高信男

研究題目: 3～6歳の子供の認知発達と言語獲得に関する実験データの収集と分析を行いコミュニケーション能力の推移を研究する

受入期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

##### 非常勤研究員

天野 (早野) あづさ

研究課題: テナガザル類の種分化・亜種分化に関する分子遺伝学的解析

所属分野: 遺伝子情報分野

研究期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

竹元博幸

研究課題: 霊長類の食物選択における植物の二次代謝成分の役割

所属分野: 人類進化モデル研究センター

研究期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

田代靖子

研究課題: チンパンジー・ボノボを取り巻く動物群集構造が類人猿の社会・生態の与える影響に関する比較研究

所属分野: 生態機構分野

研究期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

##### 研修員

船越美穂

研修題目: 中部山岳地帯に生息する野生ニホンザルの生態

受入教員: 渡邊邦夫

研修期間: 2005年4月1日～2006年3月31日

## 特別研究学生

土居裕和

研究題目：動的情報からの表情認知とその脳内機序

受入教員：正高信男

受入期間：2005年4月1日～2006年3月15日

## 5. 研究集会

### 所内談話会

第1回：2005年5月25日（水）

Anne Zeller（ウォータールー大学）

「Interaction and Object Use in *Macaca fascicularis*」

第2回：2005年7月28日（木）

Prasit Auetrakulvit（シルパコルン大学）

「オラン・アスリ（タイ南部）による霊長類狩猟の民族考古学的研究」

第3回：2005年8月24日（水）

Heui-Soo Kim（プサン国立大学）

「HERV Elements and Bioinformatics in Primates」

第4回：2005年11月16日（水）

Caterina Spiezio（トリエステ国際高等研究所）

「ペローナのガルダ動物園におけるチンパンジーとマカクの行動研究」

Alex Weiss（エディンバラ大学）

「チンパンジーとオランウータンにおける個性の特性構造とその発達」

第5回：2005年12月12日（月）

Mike P. Richards（マックス・プランク研究所）

「Reconstructing Past Human Diets Using Stable Isotope Analysis」

第6回：2006年1月27日（金）

遠藤秀紀（京都大学霊長類研究所）

「遺体科学の提唱」

第7回：2006年3月14日（火）

Gergely Csibra（ロンドン大学）

「人間のあかんぼうの知覚と認知のバイアスは、教示学習のレディネスを反映している」

Gyorgy Gergely（ハンガリー科学アカデミー）

「模倣学習を超えて：文化伝達の装置としての人間の「教育」」

第8回：2006年3月24日（金）

Evgeny Maschenko（ロシア国立科学アカデミー）

「ロシアとその周辺地域から見つかった鮮新世の化石霊長類：東部アジアにおけるオナガザル上科の分布について」

第9回：2006年3月28日（火）

Jon Lovett（ヨーク大学）

「Global Climate Change and its affect on Africa」

（文責：遠藤秀紀，橋本千絵）

### 霊長類学総合ゼミナール

日時：2005年12月9日10:00-17:00

会場：京都大学霊長類研究所大会議室

参加者：約50名

<口頭発表>

—方法論：フィールド観察から実験による行動解析—

郷（深谷）もえ / Moe FUKAYA-GO（社会構造分野）

「GPSを用いた野外調査/ Field work by using GPS」

\* Commentator 大橋岳/ Gaku OHASHI（思考言語分野）

松野響 / Toyomi MATSUNO（思考言語分野）

「あの人の顔～チンパンジーの閾値を測る～/  
Measurement of visual threshold in chimpanzees.」

\* Commentator 伊村知子 / Tomoko IMURA（共同利用研  
究員（関西学院大学・学振特別研究員））

—方法論：分子レベルから病理モデルの研究—

託見健 / Ken TAKUMI（器官調節分野）

「共焦点顕微鏡を用いたシナプスの定量的解析/  
Quantitative analysis of synaptic inputs using confocal  
microscopy」

\* Commentator 伊藤麻里子 / Mariko ITOH（器官調節分  
野・学振特別研究員）

東濃篤徳 / Atsunori HIGASHINO（人類進化モデル研究  
センター）

「霊長類での疾患関連遺伝子の進化，および組織での発  
現とその測定系/ Primate disease-related genes:  
evolution, expression in tissues, and assay of proteins」

\* Commentator Kyung Hwa KANG（人類進化モデル研究  
センター・外国人共同研究者）

ジョン・アラム / A-Ram JEONG（遺伝子情報分野）

「霊長類の免疫系関連遺伝子発現の定量的比較解析に  
おける real-time RT-PCR の有用性/ The utility of  
real-time RT-PCR for quantitative analyses of gene  
expression in primate immune system」

\* Commentator 額額大輔/ Daisuke KOKETSU（行動発現

分野・学振特別研究員）

<ポスター発表>

林美里 / Misato HAYASHI（思考言語分野）

「対面検査にみるチンパンジー乳児の認知発達/  
Cognitive development in infant chimpanzees assessed  
by face-to-face tests」

木場礼子 / Reiko KOBAYASHI（認知学習分野）

「ニホンザルにおける視覚刺激を用いた性弁別：重要な  
部位はどこか/ Sex discrimination of conspecific  
pictures in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*):How  
the monkeys are making these judgments?」

Laura MARTINEZ（思考言語分野）

「Chimpanzees (*Pan troglodytes*) and humans match voice  
to the vocalizer's picture: first results from an  
intermodal identity recognition task.」

平石博敏 / Hiroto HIRAISHI（認知学習分野）

「NIRSを用いた聴取課題遂行時の前頭前野の酸素化へ  
モグロビン量変化 / Oxy-Hb changes in prefrontal  
cortex during listening task processing measured by  
NIRS」

半田高史 / Takashi HANDA（行動発現分野）

「視覚的動きを手掛かりとした形態知覚に関する脳内  
処理機構の研究～電気生理学的アプローチと薬理効  
果による行動学的アプローチ～/ Neuronal processing  
of the shape from motion perception.  
Analyses of the neuronal activity and the  
pharmacological effect to the behavior」

平井大地 / Daichi HIRAI（行動発現分野）

「報酬及び嫌悪刺激を予告する視覚手がかり提示期の  
サル扁桃体および線条体の神経細胞活動解析/  
Neural Responses of the Macaque Amygdala and  
Striatum Related to the Prediction of Rewarding and  
Aversive Outcomes.」

福島美和 / Miwa FUKUSHIMA（認知学習分野）

「学習困難をもつ生徒のリテラシーに関する系統的評  
価/ Assessment about literacy for children with learning  
difficult」

佐藤義明 / Yoshiaki SATO（思考言語分野）

「飼育下チンパンジーにおける道具使用行動の獲得/

Acquisition of tool use behaviors in captive chimpanzees (*Pan troglodytes*)

川合 静 / Shizuka KAWAI (集団遺伝分野)

「ニホンザルのミトコンドリア遺伝子の全塩基配列の  
解説/ Sequencing of mitochondrial DNA genome of  
*Macaca fuscata*」

神田 恵 / Megumi KANDA (社会生態)

「霊長類の社会交渉における個体の行動戦略について  
(レビュー)/The behavioral strategy of social interaction  
in primate species (review)」

M. F. JAMAN (社会生態)

「Comparison of activity budget, age/sex class differences in  
seasonal food preference and energy intake of  
provisioned Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in a  
naturally vegetated enclosure and two non-vegetated  
enclosures.」

村井 勲裕 / Tadahiro MURAI (共同利用研究員・北海道大  
学)

「寝床の分布分析からみたテングザルのバンド構造/  
Band structure of proboscis monkey, analyzed from the  
distribution of sleeping sites」

霊長類学総合ゼミナールは、霊長類研究所ティーチ  
ング・アシスタント (TA) を中心とした大学院生が企  
画、運営する研究会である。各分野でおこなわれるセミ  
ナーとは違い、所内全分野の教官・研究員・院生が一堂  
に集い、分野を越えた学術的交流を深めることを目的と  
する。今年度は、博士後期課程 2、3 年の院生が口頭発  
表にて、博士後期課程 1 年と修士課程 1 年の院生がポス  
ター発表にて各人の研究を発表した。口頭発表について  
は、「方法論」というテーマを設けた。また、今年度の  
新たな試みとして、各口頭発表に対してコメンテータ  
を設けた。これにより、研究内容に対する討論が活性化し、  
異なる専門分野への知見を高める意義深い機会となっ  
た。

(TA : 郷もえ, 鈴木真理子, 山本真也,

文責 : 半田高史)